

『哲学の探求』第52号執筆要項

哲学若手研究者フォーラム『哲学の探求』

第52号編集担当 石川知輝

このたびは『哲学の探求』への執筆希望をお知らせくださいます。誠にありがとうございます。下記の要領で原稿を受け付けますので、各項目をご確認の上で、原稿作成および投稿を行なってください。執筆要項は、年度により変更が加えられることがございますので、過去に『哲学の探求』に執筆した経験のある方もご確認ください。（とくに重要な点につきましては、**太字**で強調してあります。）ご理解ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

記

- 『哲学の探求』の全面的な電子化について
 - 『哲学の探求』は、第42号（2015年度発行分）より電子媒体での発行に移行し、哲学若手研究者フォーラムのHPおよびJ-STAGE上での掲載という形態をとっております。『哲学の探求』に論文を投稿される方に関しましては、HP上での論文の公開に同意したものとみなします。電子化に伴い、**紙媒体での新規発行は終了しております。**
 - 抜き刷りが必要な方は、こちらからPDFデータをお送りしますので、執筆者ご自身で印刷ショップ等をご利用ください。
- 原稿締め切りや校正の日程については、すでにお送りした「編集スケジュール」をご参照ください。
- 執筆者分担金として、一律**7000円**をいただきます。
 - 第41号（2014年度発行分）までの執筆者の方々からいただいていた執筆者分担金は、電子化に伴い第42号（2015年度発行分）においていったん廃止されました。しかし、近年の本フォーラムの運営・会計状況を考慮し、第43号（2016年6月発行）より、再び執筆者分担金を徴収させていただきます。いただいた分担金はフォーラム運営費に充当させていただきます。ご寄稿いただく皆様には何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。分担金の正式な集金につきましては、『哲学の探求』の発行前後に別途、会計担当者よりご連絡申し上げます。

4. 字数制限は、Microsoft Word の字数換算で、以下の通りとします（注は含めるが、文献表は含めない）。

- テーマレクチャー原稿：**2万字以内**。
- 個人研究発表に基づく原稿：**2万字以内**。
 - この枠には、「個人研究発表の枠を用いて行った共同研究発表」も含まれます。共同発表である場合は、人数にかかわらず、その発表全体で2万字に収めてください。
- ワークショップに基づく原稿：**ワークショップ全体で4万字以内**。
 - ワークショップで発表した人数にかかわらず、ワークショップ全体での合計字数が4万字に収まるようにしてください。
 - 「4万字」という字数は、ワークショップが個人研究発表2枠分の時間を占めることから定めたものです。
- 近年におけるフォーラムでの発表者数の増加に伴い、雑誌全体での原稿量が増大する傾向にあります。可能な編集作業量に限りがあることから、ご投稿いただく原稿の分量に上限を設けさせていただいております。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。原稿分量が上限を大幅に超えている場合、原稿を受け付けられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

5. 提出にあたっては、メールに原稿をファイル添付してください。

- ファイル形式は **Microsoft Word（拡張子は.docx）** に限定いたします。

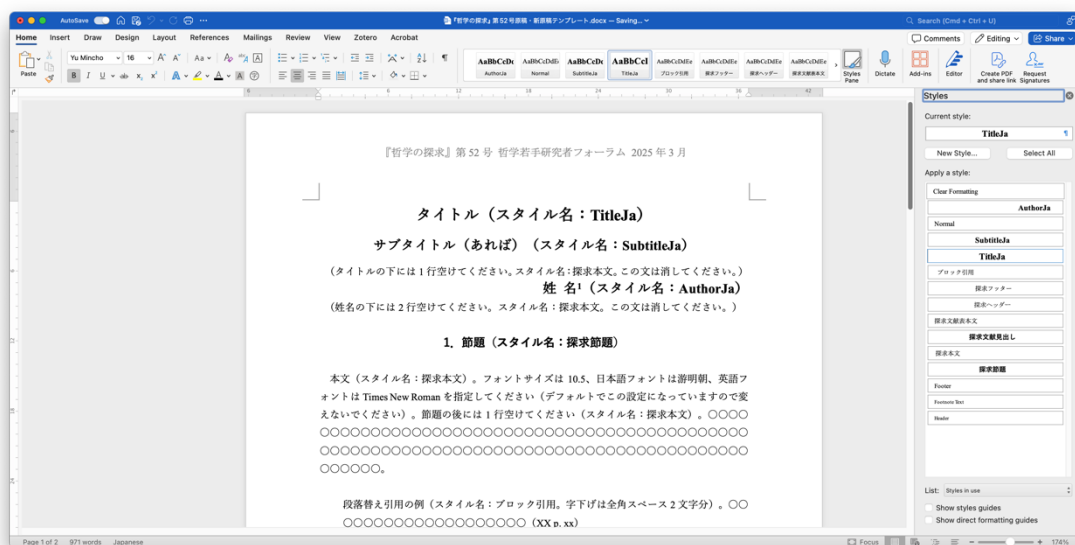
6. 原稿を作成する際の注意事項

- 設定一般

Microsoft Word 文書の設定およびタイトル、本文、註などの体裁は、別ファイルでお送りしました「『哲学の探求』原稿テンプレート」を踏襲してください。また、書式は自分で定めるのではなく、**テンプレートの書式設定パネルを必ず用いてください**。書式設定パネルを用いない場合、J-STAGE に一括アップロードする際にタイトルや著者名などが読み取られないトラブルが発生するためです。また、原稿の書式は年度によって異なる場合がありますので、過去に『哲学の探求』に執筆した経験のある方も改めて「『哲学の探求』原稿テンプレート」をご確認ください。具体的には以下のとおりです：

- タイトルのフォントサイズは16、サブタイトルのフォントサイズは14、姓名のフォントサイズは14、注のフォントサイズは9、それ以外のフォントサイズは10.5。

- タイトル・名前・本文の和文フォントは游明朝、欧文フォントは Times New Roman。見出しのみ、邦文・欧文フォントともに游ゴシック。
- 原稿サイズは A4 です。
- 余白は、上 7.56pi、下 7.56pi、左 6.38pi、右 6.38pi です。
- 行間は 18.5pt です。
- 句読点は全角句点「。」、全角読点「、」をご使用ください。
- なお、特に日本語以外の非ヨーロッパ語圏の言語を表現するために上記以外のフォントを用いる必要がある場合は、使用を希望するフォントについてご一報ください。なお、その際使用するフォントはできるだけ一般的なパソコンに搭載されているフォントであることが望ましいです。
- テンプレートには使用すべきスタイル名が記されていますのでご参照ください。なお、J-STAGE との互換性や Word の仕様との関係で、スタイル名にあまり一貫性がありませんが気にしないでください。
- スタイルは以下のスクリーンショットのように、「ホーム」タブの右側に出てくる「スタイル」および「スタイルウィンドウ」から選んでください。



- 注のつけ方
注は Microsoft Word の機能を使い、文末中ではなく脚注によってつけてください。
- 参考文献の位置
参考文献は本文のあとにまとめて掲載してください。したがって、原稿全体は「タイトル、名前→本文（および注）→参考文献」の順で構成される必要があります。

- 文献指示・参照のスタイル
文献指示・参照のスタイルについては、テンプレートに記載のスタイルを原則として用いてください。ただし、特定のスタイルや慣習に従う希望がある場合は、そのスタイルのもとで一貫性のある参考文献表が作成されているかぎり、著者の裁量の範疇とします。ただし、日本語の書名は『』、欧文の書名はイタリック体で示すなどの一般的なスタイルに著しく反する独自のスタイルはご遠慮ください。その他の言語で表記方法に不明な点がある場合は編集担当までご確認ください。
- 特殊文字
特殊文字・記号類（ギリシャ文字、キリル文字、論理・数学記号等）に関して、編集者の側では専門的校閲を行いません。これらの文字類を使用する際は、執筆者各位で自主的な校正に努められるよう、お願いいたします。
- 全角英数字
原則として使用しないでください。とくに欧文を引用するとき、あるいは注で欧文文献を指示する場合には、半角の英数字および記号をお使いください。また、スペースも全角を使用せず、半角に統一してください。例：
○ Michael Albrecht, *Kants Antinomie der praktischen Vernunft*, Georg Olms, 1978, § 17.
× Michael Albrecht, *Kants Antinomie der praktischen Vernunft*, Georg Olms, 1978, 1
ただし、丸括弧については用途に応じて全角・半角を自由に使い分けてかまいません。たとえば、丸括弧で囲まれる内容が邦文のときは全角丸括弧（）を使い、欧文のときは半角丸括弧()を使う、など。
- 禁止事項
スペースを使った行端揃えをしないでください。書式を一括して揃える際、編集委員の方でスペースを一つ一つ手作業で削除する作業が発生し、大変大きな負担となりますのでご協力をお願いします。
行端について特別な指示が必要な場合は、ファイル上にスペースを挿入せず提出時メール本文にその旨を指示してください。
- 図表その他
Microsoft Word 付属の作表機能を用いてご自身で A4 サイズに収まるものを作成していただき、保存、提出してください。特別な図表の挿入が必要な場合は、適宜お問い合わせください。
- ワークショップ原稿について

ワークショップ原稿は全体で一つの原稿として取り扱います。したがって、共著論文という形式を取らずに各発表者の論文ないし要旨を並列して掲載する場合でも、ワークショップ全体のタイトルを必ずつけてください。その上で、各発表者の論文ないし要旨は、一つの原稿の中の節という扱いにしてください。また、執筆者名は原稿全体のタイトルの後（テンプレートの「姓名」欄）に全員分を行を分けて記入してください。各発表者の執筆範囲等を明示したい場合は、序章や注などにおいて実態に即した指示をするようにしてください。

なお、原稿の書式・体裁に関して、上述した設定から大幅に逸脱している場合、原稿を受け付けられないことがあります。あらかじめご了承ください。

本要項についてのお問い合わせ先：石川知輝（編集担当） tomokiishikawa28@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

以上